

皆さんは内分泌疾患と聞いてどのような病気を想像しますか？ 内分泌疾患とはホルモンの病気です。「男性ホルモン・女性ホルモンと関係ある？」と考えた方もいらっしゃるかと思いますが、それだけではありません。[図]のように、我々の身体には多くのホルモンがあり、そのバランスが乱れることで様々な病気を発症します。「内分泌疾患なんて初めて聞いた」とおっしゃる方も多いと思います。

ここでクイズです。糖尿病以外の内分泌疾患を持つ患者さんはどのくらいいるでしょうか？

- ① 1,000~2,500 人に 1 人
- ② 100~250 人に 1 人
- ③ 10~25 人に 1 人

今回は、内分泌疾患の中でも比較的頻度の高い疾患について、お話しします。

まずは、甲状腺の病気についてです。甲状腺は、喉仏（のどぼとけ）の下に位置する蝶々のような形の臓器で、新陳代謝を高める甲状腺ホルモンを分泌しています。甲状腺ホルモンは成長・発達・新陳代謝の調節に欠かせない重要なホルモンですが、多すぎたり少なすぎたりすると身体に変調を来たします。甲状腺の病気には、バセドウ病に代表されるような甲状腺ホルモンが過剰に分泌される（甲状腺機能亢進症を呈する）病気と、橋本病に代表されるような甲状腺ホルモンが不足する（甲状腺機能低下症を呈する）病気があり、いずれも典型例では甲状腺の腫れ（甲状腺腫）が認められます。甲状腺機能亢進症の患者さんではイライラ、手の震え、発汗過多、脈が速い・乱れる、疲れやすい、体重が減る、などの症状がみられます。甲状腺機能低下症の患者さんでは、寒がり、肌の乾燥、便秘、疲れやすい、食べない割に体重が増える、などの症状がみられます。しかし、これらの症状があっても「たまたま忙しくて疲れているだけ」と考えて医療機関を受診されず長年放置されていたと思われるケースも多いのです。「甲状腺クライゼ」と呼ばれる命にかかわる状態にまで悪化して受診される方も少なくありません。

もう一つ頻度の高い内分泌疾患に原発性アルドステロン症という副腎に関連する病気があります。「そんな病気初めて聞いた」とおっしゃる方も多いと思いますが、近年この病気をもつ患者さんが、高血圧を有する患者さんの 10 人に 1 人程度存在することが分かってきました。副腎は左右の腎臓の上にそれぞれひとつずつ存在する空豆大の臓器で、コルチゾール・アルドステロン・カテコールアミンなど生命維持に重要なホルモンを分泌します。そのうちアルドステロンというホルモンが副腎から過剰に分泌される病気が原発性アルドステロン症です。この患者さんでは通常の高血圧症（本態性高血圧症）の患者さんに比べて、脳卒中や心臓の病気（狭心症・心筋梗塞や、心房細動などの不整脈）、腎不全を合併する頻度が高いことが知られています。特に 30 歳未満で高血圧がある、三種類以上の降圧薬（高血圧治療薬）を使っても血圧が適正にならない、血中

カリウム値が低い、などに該当する方では原発性アルドステロン症が疑われます。内分泌内科での精密検査をお勧めします。

さてクイズの答えです。内分泌疾患の中でも甲状腺機能低下症（潜在性を含む）の患者さんが最も多く、成人の4～10%に見られるとの報告があり、その他の内分泌疾患もありますので答えは③です（もっと多いかもしれません）。このように内分泌疾患をもつ患者さんは多いのに、意外と見過ごされている場合が少なくないと考えられます。一方で適切な診断・治療により症状が劇的に改善する内分泌疾患も多いのです。これまで述べた中で思い当たる症状がある方は、内分泌内科の受診をお勧めします。

（書籍『小象の 元気！で行こう』25話より）